

令和7年度 学校経営方針

豊島区立仰高小学校
校長 仁科光一

I 学校教育目標

〈校訓〉 豊かに学び 美しい心と才能をみがき 共に明日を創っていこう 進め 登れ 遠く 高く

仰高小学校は、校訓（教育目標）を上記のように掲げ、知的な好奇心や主体的に学ぼうとする探究心にあふれた児童を育ててきた。今後、さらに児童の学びを豊かに発展させるためには、学校が児童にとって楽しく、親和的で、安全安心で学び合える環境であることが求められる。これらの実現に向けて教職員が児童一人一人の人権を尊び、日々の学習と生活の指導を充実させていく必要がある。

また、巣鴨と駒込という特色のある地域で創立149周年を迎えた本校は、幾多の困難を乗り越え、長い歴史と伝統を培ってきた。時代の変化と共に地域や保護者からの期待も益々高まり、本校の教職員は、次世代の社会を担う児童の教育を任されている。この期待に応えるために、「豊島区コミュニティ・スクール（CS）」として、本校の教職員一人一人が今日的な教育課題を的確に捉え、児童の成長を第一とする教育活動を実践し、児童がよりよい社会の担い手となるように協働していく。

II 本校が目指す教育

〈目指す学校像〉 笑顔で始まり、自分の言葉で気持ちを伝え合い、本気で力を発揮する学校

児童の笑顔で始まり、自分の言葉で気持ちを伝え合い、本気で力を発揮する児童を育てるために「ほめて共感して考えさせる」教育を旨とし、学校・家庭・地域がオール仰高として一体となり、教育活動の一層の充実を図る。

また、地域や学校の特性を生かした仰高SDGsを掲げ、人にも自然にも優しい学校教育を目指すこととする。さらに、ISS（インターナショナルセーフスクール）認証校として培ってきた安全安心な学校づくりをTSS（としまセーフスクール）活動で継承すると共に、児童の心と体の健康を維持・増進していくことを本校教育の基本とする。

これらのために教師は授業力を高め、学校内外での研究に裏付けられた指導力を発揮し、児童の自主・自律を促して主体的・対話的で深い学びの実現に寄与する学校たらしめる。反省的に実践を積み重ね、自ら伸びようと志す教師のもとで児童の成長は促される。以上のことを踏まえ「6つの教育方針」を以下のように示す。

- ① 人権尊重の精神に基づき、児童が生きがいをもてる学校
- ② 確かな学力と豊かな心を育てる指導力を特色とする学校
- ③ SDGs・TSS・健康教育による環境と人に優しい健全な学校
- ④ 一人一人の児童に全教職員が責任をもつ学校
- ⑤ 開かれた教育を進め、地域との連携を図る学校
- ⑥ 職員のサービスの厳正を図り、社会に信頼される学校

III 校訓（教育目標）達成に向けた3つの育成ポイント

（1）確かな学力の育成

○仰高スタンダードによる基礎学力の定着とユニバーサルデザインの推進

- ・学習規律を統一し、授業の展開を構造化した板書とノート指導を連動させて思考力の向上を図る。
- ・読書や音読を習慣付け、発表や説明の機会を増やして言語活動を充実させる。

- ・タブレット端末を積極的に活用し、情報の収集や共有、発信などの ICT 活用能力の向上を図る。
- ・教科等での ICT 活用や算数習熟度別指導、理科 TT (ティームティーチング) などの指導方法改善により、個別最適な学びを支援する。
- ・ALTと連携した外国語活動や外国語を母語とする児童への日本語指導の充実により、国際理解教育や多文化共生の基盤をつくる。

○自己成長を促すカリキュラムマネジメントによる授業改善

- ・「主体的、対話的で深い学び」の実現を図るために、「課題に対して自分の考えをもち、すすんで解決しようとする児童の育成」を目指して研究を進める。
- ・児童が「自分で決める→やってみる→振り返る」のスパイラルで自己調整ができるように指導する。
- ・学習情報センター（学校図書館と ICT の連携）を利用し、教科等横断的に探究して課題を解決できるように支援する。

(2) 豊かな人間性の育成

○いじめや暴力・暴言のない学校づくり

- ・規範意識を高め、人権感覚を磨き、相手を思いやる言葉遣いや気持ちのよいあいさつを励行する。
- ・「考えて議論する道徳」の授業を工夫し、保護者・地域に公開して道徳的な価値を共有する。
- ・i-check を活用し、個と集団の両立を図りながら自己肯定感や自己有用感、自尊感情を育てる。

【学級づくりのめあて】

- 1学期：親和的な関係性を築き、目標を立てる
- 2学期：児童が力を発揮し、感動を共有する
- 3学期：児童が互いの成長を認め合う

【なかよし班活動（異学年交流）】

- 1学期：互いを知り、仲良くなる
- 2学期：活動を楽しみ、交流を深める
- 3学期：一年間を振り返り、感謝する

(3) 健やかな心と体の育成

○健康教育や体力向上の推進

- ・歯磨きタイム（給食後）や歯っぴ〜2week（歯磨き習慣）、アイアイ体操（眼球運動）などの実施。
- ・仰高ワクワクランド（休み時間の遊び道具の工夫）や持久走タイム、縄跳びカードなどの取組。
- ・仰高スポーツフェスティバル（GSF）による体育的行事への主体的な参加。

○食育の充実

- ・食への関心を高める情報提供や担任と栄養士の連携による給食指導や食育の授業づくり。

IV 学校運営体制

(1) 教職員の参画と協働による組織的な運営

- 子供の成長を共に喜び合う互恵的なチームをつくる。
- 子供たちとふれあう時間と心のゆとりを生み出すために教職員の働き方改革を推進する。
- 体罰や性被害等の防止のために服務事故防止研修を年3回以上実施し、服務の厳正に努める。

(2) 組織としての危機管理

- いじめ・不登校・児童虐待、災害・感染・ケガの防止（未然予防・早期発見・早期対応・再発防止）
- 具体的な事例を全教職員で共有し、報告・連絡・相談で組織力を高める。
- 教育行政・警察・消防・医療・福祉などの関係機関と連携を図る。

(3) 学校・家庭・地域・関係諸機関との連携及び協力

- 巣鴨駅前通商店街「セタ祭り」（全校）、巣鴨大鳥神社商店街「巣鴨駅前南口花壇“芝桜プロジェクト”」（全校）、巣鴨地蔵通り商店街「持久走」（全校）、南口盆踊り（3年：よさこい）、東京よさこい祭り（4年：よさこい）、地蔵通り盆踊り（5・6年：ソーラン）、仰高ビオトープ活動（5年）、CS地域学校協働本部の設置と地域コーディネーターの委嘱、創立150周年記念準備委員会（地域・PTA）など。
- 保幼小連携の年長園児との交流会（1年生）、小中連携のゴミゼロデーやあいさつ運動など。